

オアシスの森くらぶ

ニュースレター 12号 2001.7.28発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人 永田 修二
編集人 近藤 眞史
編集長 五十川 幸夫

新役員が決定しました！！

2001年度総会の経過報告については、先日会員のみなさんに郵送等でお知らせしたところでありますが、7月14日の運営委員会において、正式に新役員が決められましたので、改めてご報告いたします。

オアシスの森くらぶ

会長 永田 修二
副会長 眞弓 浩二
(兼運営委員長)
会計 村田 英二
会計監査 小池 敦夫
書記 近藤 眞史
運営副委員長 石川登志子

オアシスの森公園愛護会

会長 五十川幸夫
(敬称略)

2001年度、森くらぶは永田修二さんを新会長として、さらなる発展が期待されます。会員のみなさんも大いに盛り上げていって下さいませよう、よろしくお願いします！

この度、「相生山オアシスの森くらぶ」の会長に無理やり？選出させられた永田です。よろしくお願いします。全国的にも注目されている、新しいタイプの市民による森の活動グループの会長などと言う、大それた役に就くことになり今更ながら責任の重大さに恐れおののいています。森クラブが発足して3年と少し、今、最初の壁に突き当たりかけているのかも知れません。メンバー皆が楽しんで活動できる「くらぶ」にできるよう微力ながらお手伝いできればと思います。



新会長・新副会長から会員の皆さんに一言！



3回の会合を経て、オアシスの森くらぶ2001年度の新役員体制がようやく決定し、今年度より運営委員会及び正副両運営委員長が新設されました。運営委員会では「森くらぶ」の活動が広く市民に理解され、より活発で充実したものとなるよう、会の運営全般について協議します。会員なら誰でも参加でき、右手にエンピツ、左手にビールといった和やかな雰囲気の中で、しっかりとした議論をしていく場です。皆さんも気軽に参加して「くらぶ」の運営に関わってみませんか。

近藤記巳子初代会長からのメッセージ

1998年3月のオアシスの森くらぶ発足から3年、皆さんに支えられ会長を務めることができました。ありがとうございました。発足当時「行政とのパートナーシップによる森づくり、それって何？」という状態から、今では私たちに続くグループの誕生も、他団体の見学も増えています。しかし、先発グループなるがゆえの問題も抱えています。新会長、新副会長の活躍で問題解決し、すばらしい組織となることを期待しています。

運営活動会の新設について

眞弓 浩二

オアシスの森くらぶ会員の協力によって数多くの活動実績を重ねてきた当会も、発足後早3年の歳月を経過しました。ここで、今後さらなる会の活性化、活動の充実を図るために、今日までの活動やそれを支えてきた運営体制を振り返り、次の課題点について総会で確認しました。

会の運営に関わる会員が少数かつ一定メンバーに限られていること。
森くらぶの活動がまだまだ一般市民に正しく理解されていないこと。
会員と運営メンバー、また会員相互の情報交流が十分とはいえないこと。
活動会への参加者が少ないこと、オアシスの森に入る機会が少ないこと。

これらの課題に対する一つの対応策として次の事項が提案され、了承されました。

(1) 毎月第2土曜日の午後を運営活動会とし、フィールドワークと運営委員会を行う。

(2) フィールドワーク

活動内容：森の点検・活動テーマの収集・活動内容や森の解説等の掲示・定例活動会の補足作業等をおこないます。

活動日時：毎月第2土曜日 午後1時より3時まで 雨天決行(活動内容によっては午前10時から行う場合もあります。)

集合場所：相生山緑地 オアシスの森 集いの広場

参加：オアシスの森くらぶ会員の自由参加

(3) 運営委員会

協議内容：前月活動の報告と振り返り、今月活動の企画や準備、会

の運営に関する作業、会の運営に関するすべての事項に関する協議と決議、および情報交換等をおこないます。(総会と並び、当会の意志決定機関としてこの運営委員会を位置づける。)

活動日時：毎月第2土曜日 午後3時より5時30分まで

場所：原則的に相生コミュニティーセンターにておこないます。会場確保が無理な場合は山根コミュニティーセンターとします。

参加：オアシスの森くらぶ会員の自由参加

8月はお休み

次回は9月8日(土)です。運営活動会へ、会員の皆さんの積極的な御参加をお願いいたします。集いの広場で1時にお待ちしています。

トンボ池PART 再生プロジェクト 「グラウンドワーク方式によるトンボ池づくりの実践」

眞弓浩二

1998年5月の定例活動会で造られた菅田口近くのトンボ池は、その後2000年5月の定例活動で更なるグレードアップを図るべく、玉石護岸や飛び石園路等の追加工事をおこないました。(ニュースレター9号2000・7・22参照)この時の作業は、粘土を突き固めただけの池から、水生動植物の住処として多様な生息環境を造るというトンボ池のエコアップが本来の目的でしたが、池底に張られた薄い粘土層を作業中に踏み破ってしまったようで、その後幾日かで池の水が濁れてしまいました。池の中で作業していたのは私だけだったことから、いきがかり上逃げられない羽目に陥り、なんとかしなければと気がかりな日々が続いていました。

今年度になってトンボ池の番人ともいえる小池さんから「何とかしよう」という呼びかけがあり、「今度は絶対に漏らないように防水シートを張ろう」と考えました。現場は礫混じりの畑地で極めて水保ちの悪い土地条件ですが、水系の少ない相生山で生物の多様性を求めるには、水辺の創出が欠かせないと判断から、今回は人工的な素材で

はありましたが防水シートの採用を決めました。

とは言っても、森くらぶの資金状態でそれらを購入する余裕はなく、グラウンドワーク方式(市民・企業・行政の3者による協働)による再生活動の可能性を模索し始めました。幸運にもこの企画に賛同し資材を提供してくれる企業が現れ、一挙実現に向けて弾みがつきました。その企業は、(株)ホージュンという防水シートメーカーで、ベントナイトという特殊な粘土を付着させたポリエチレンシート(約30万円相当)を提供してもらえることになりました。また、天白土木事務所からは玉石や杭、粘土などを調達して頂き、こうなると労力を担当する(一部材料費も負担しています)森くらぶも張り切らざるをえませんでした。

このような経緯で以下のような作業工程を計画しましたが、参加者の熱心な作業と天候にも恵まれ、予定通り立派に完成させる事が出来ました。



第1回活動日：4月28日(土)
午前10時～午後3時
約30名の参加を得て、池底の整形と礫の除去、粘性土の敷均し作業をおこなった。



トンボ池底の整形作業として草取り、地均し、礫の除去、突き固め等の作業をおこなった。

第2回活動日：5月12日(土)
午前10時～午後5時
約20名の参加を得て、防水シートの敷設と粘性土の覆土作業をおこなった。

メーカーの指導員からも賞賛されるほど、プロさながらの手際の良さで順調に作業は進んだ。



(株)ホージュンの担当者に施工指導を受けながら、我々の手で池底にシートを張り、テープで接着していった。



コナラの丸太を手斧(ちょうな)で削る野浪さんら。

第3活動日：5月26日(土)
午前10時～午後2時
約15名の参加を得て、池周囲の護岸など仕上げ作業をおこなった。



前日までに降った雨が溜まり、防水性能が確かめられたが、この日の仕上げ作業のために水をかい出す必要があった。



作業を終えてみんなで記念撮影。写真には写っていない多くの参加者の方々、本当に御苦労さまでした。

3回の活動がともに好天に恵まれたのは良かったのですが、大変暑い中で

の重労働で皆さん本当に御苦労さまでした。一輪車で何杯も粘土や石を運んだ大館さんや名和さん、シート張りや橋台づくりで活躍した村田さん、黙々と立派なコナラの丸太を削って橋をつくった野浪さん等々、多くの皆さんの力で立派なトンボ池ができ、今は満々と水を湛えています。今度は、いよいよ虫や水草たちの出番です。

今回のプロジェクトでは企業にも関わってもらい、名古屋市内ではあまり聞いたことがないグラウンドワーク方式での活動となりました。我々も事例は知っていても経験は初めてということもあり、いろいろと勉強させられることがありました。実際に汗を流す作業はもちろんですが、このような活動の企画・運営をとおして、外部の人たちと協働していくこともまた市民活動の大切な目的ではないかと、活動を終えた今、改めて感じています。そして、「オアシスの森」と「オアシスの森くらぶ」が今後、地域住民やより広い市民社会との交流の中で育まれていくべきではないかと思うのです。

梅雨時を控えた5月の活動として定着し始めてきたトンボ池づくり。まさか来年の池底作業はないと思いますが、このトンボ池が虫や鳥や来園者にとって「オアシスの森のオアシス」となるように、これからも見守っていきたいと思います。

今にも雨が降り出しそうな梅雨時の曇り空の中、6月の定例会が行われました。今回は、以前森のレスキューで好評だった講師の川尻さんを再びお迎えして、フィールド観察と道具の手入れを行いました。

前半はフィールド観察ということで、集いの広場から、見晴らしの丘へと向かい低木の小径、トンボ池を經由して再び集いの広場へ戻るコースを取りました。前半、印象に残ったことを章立てしてお送りします。

《やぶ蚊 またか!!》 今考えると何でこんなことに気づかなかったんだろうと思います。六月の山に入るといのに自分の服装といたら・・・半そで。あたりまえのように蚊の取り巻きに追われるハメに。トンボ池付近に到着したとき、ヨモギ・ヤブガラシを揉んだものが虫刺されに効果的と聞き早速実行。やっと痒みから開放されました。この場所では他にも草もちに使う草は大昔ハハコグサだったという話や、草にもオス、雌があるという話など興味深いけど自分には語れない話が盛りだくさんでした。

《b a 松 y 旅立ち》 見晴らしの丘から少し歩いたところで川尻先生が熱心に説明されている横で近藤さんから『見て見て!!』と周りの人を静かに呼ぶ声が。近藤さんとその周りの人の視線が足元に釘付け。説明を終えた川尻さん他メンバー一同近藤さんの足元に注目すると種の帽子をかぶったまま松の新芽がこっちを見上げて『Helb!!』。川尻さんの話では、松の種子は養分の多い土壌では発芽しないそうです。今回発芽した松にこれからどんな旅路が待ち受けているのか・・・。みんなで

応援しましょう。

《泡立つ茸》 baby松を後にして、しばらく行くと川尻さんが『すっごいよー。これ』と興奮気味の声が聞こえ、後方でのんびりと写真をとっていた自分もすかさずダッシュで集合。そこで待ち受けていたものは、【泡を吹き出した切り株】ではなく【切り株に吹き出した茸】。クサヒメオオギダケと言って川尻さんも『ここまで大きいのは始めて見た。』と絶賛。みんなこぞとばかりに撮影テクニックを披露していました。



クサヒメオオギダケ

この他にも、おばあちゃんの知恵袋に入ってるような話をたくさんしていただきました。すべてをお伝えできないのが残念です。

さて、後半は場所を生涯学習センターへ移して道具の手入れを行いました。まずは、刃物の話から。両刃・片刃のちがいや、刃物は二段か三段に削ってあり、最後刃を削り出時につける角度を『しのぎ』ということ等を教えていただきました。そして、砥石にも天然砥石と人造砥石があり、やはり天然砥

石のほうがいいそうです。この天然砥石と人造砥石では、使い方が大きく違い、人造砥石は研ぐ前に水に浸さなければならぬのですが、天然砥石は、砥石の表面に水をたらすだけで研ぎ始めることができるそうです。

刃物と砥石の話で盛り上がった後、いよいよ実践。なにはともあれ、実際にやってみないとわからないということなので、一言だけ『刃物を固定して削るように』と言われて、実際に鎌や鉋を研ぐことに。自分もなれない手つきで砥石をもち、錆で埋め尽くされた鎌を一削り、二削り。やがて、錆も取れ本来の色が戻ってきたところで、しのぎを削ることに。これがまた、骨が折れる作業で、なかなか刃がたたない。刃がたつと指の腹を当てたとき、引っかかる感触がするのですが、自分の鎌は、研げども研げども一向に、引っかかる感触がしない。相当刃が丸まってたか、研ぎ方が下手なのか、最後まで時間をかけ、まあこの辺でいいだろうという妥協も入り、やっと研ぎ終えることができました。最後に水をふき取り、油を塗り、みんなの研いだ鎌の並んでいるところへ、並べて終了。鎌一本研ぐことがとても大変だということをもって実感しました。

最後に、川尻さんから『柴刈りをするための道具も毎回と言わず、年一回ぐらいはみんなで手入れしてあげましょう。』との言葉をいただき、6月の定例活動会は幕を閉じました。今回道具を手入れして、道具に愛着を感じるようになりました。これから道具を使うときは、今よりもう少し丁寧に使おうと思います。

6月23日 定例活動会に参加して

小松 嘉久

昨年、雑木林塾を受講して、クラブの存在を知り、すぐに会員に参加した小松嘉久です。

西日本OBサッカー連盟会員で、かつ、日本サッカー協会に登録している69才現役のプレーヤー? のため、第4週土曜日が、所属チームの練習日・試合日と重なり、定例活動会に参加できなくて、うずうずしていましたが、今回の6月活動会に、(それまでの雑木林塾講習生ではなく)クラブ会員として、胸をはっての初参加でした。

6月23日は、あいにくの梅雨のぐつついた雨模様のお天気でしたが、サッカー同様、晴雨不論のこの会のこと、雨支度しっかりの構えで参加しましたが、残念ながら? たいした雨も降らず、午前の部の森のレスキュー講座(森をたすける講座かと思ったら、山の中での人間救助の薬草・樹木の講座でびっくり!)は、雨具なしの平凡な山歩きとなりました。

ただ、講師の先生が示すレスキュー用の植物は、ほとんどが雑木塾講座での近藤記巳子さん推薦の相生山代表20種類の植物で、名前が思い出せないどころか記憶にない、植物学劣等生で、かつ、もの忘れ抜群の生徒にとつて、少々苦痛でした。

とくに、漆にかぶれたことのない不感症人間は、がきのときから山に入って警戒心皆無のため、自衛本能で植物の名前を覚えることを知らなかった少年時代が、恨めしくさえありました。

それでも、蓬が虫さされに効くことがわかり、小雨まじりの天気の中、藪蚊にやられた両手の甲に塗る実践して、一つ、知恵がつかえました。

午後の部の「道具の手入れ」は、仕事から(現役時代は特殊鋼会社勤務)刃物大好き人間にとって、たのしい3時間でした。

砥石の用途別の番手呼称・天然と人

造の砥石の研ぎのメカニズムの違い・鎌を研ぐときの鎌と砥石の位置・手の動かし方、など、教えられて、それまで無意識にやっていたことが、「目からうろこ」のように、理解できました。

去年、長根台小学校で、竹とんぼ作りを6年生に3時間、教えました。小学校備品の切りだし小刀・錐の手入れの悪さにびっくりし、教える前日、4時間かかってナイフと錐を研ぎ、教えたときも生徒に、小刀が切れなくなったらこうやって研ぐと、教えたことで、彼らが目を輝けて工作してくれたことを思い出しました。

それはさておき、すばらしく酷使された鎌が、先生の指導で、錆を二つつけた研ぎあがりの成果をみて、今回の定例活動会では、どうしても自分が研ぎあげたクラブ備品の鎌の切れ味を試してみたいものだ、と思っています。

今回の定例活動も、ぜひ、参加しよう!

ビデオライブラリー ~みんなで借りてね!~

会員の野浪さんのご好意で、下記のビデオを保有しています。
貸し出しをご希望の方は、小池までご連絡下さい。

(tel/ 0561-62-08 90)

- 1) 生き物地球紀行 - 琵琶湖畔の里山 -
 - 1 木の国の誕生(00 2.18)
 - 2 人が育む森(00 2.25)
- 2) 生き物地球紀行
 - 1 武蔵野台地の四季('99.11 22)
 - 2 信州浅間山麓 - オオスズメバチ - (00 2.7)
 - 3 週間ボランティア - 森に遊ぶ、森でふれあう - ('97.10 .17)
- 3) 1 明治神宮物語('98.1.1)
- 2 ETV 特集 - 竹と遊ぶ - ('99.6 28)
- 4) 1 映像詩 里山('99.4.8)
- 2 皇居の自然(00.1.10)
- 5) 1 未来派宣言 - 横浜の空をトンボの散歩道にしたい - ('97 7 25)
- 2 未来派宣言 - 絶景・棚田を復元した男 - ('98.11 30)
- 3 未来派宣言 - 街づくりは住民が主役 - ('99.10 23)
- 4 ETV 特集 - 炭焼き窯 山村夢工房 - ('98 2 5)
- 6) 1 にんげんゆうゆう
- ボランティアが社会を変える - (01 6 21)
- 2 クローズアップ現代
- 異常繁殖、竹林で山が荒れる - (01 5 21)

以上の6本です。

森づくり実践講座 ~森のあり方を考えよう~

小池 敦夫

我が森くらぶでは、毎年天白生涯学習センターと共催で「雑木林塾」を開催してきましたが、今回は講座のねらいを変えて企画しました。オアシスの森くらぶの会員を主な対象として、里山の植生管理について、ある程度指導できるまでの技術を習得するための系統的な学習を行うことを目的としています。

会員の皆さんは、ぜひ、受講して下さいね! 受講料は全部で1,500円です。

- 1) 10月20日(土)
「森の樹木を見る ~ツリーウォッチング~」
相生山緑地の樹木をじっくり見る、そして覚える
- 2) 11月10日(土)
「里山を歩く ~手入れする森、自然の森の違い~」
相生山緑地を歩き、森の多様性を見る、そして森のあり方を考える
- 3) 12月8日(土)
「森を調べる ~森の測り方、森の構造を知る~」
相生山緑地の森の構造を調べ、伐る木、残す木の計画づくりを行う
- 4) 1月12日(土)
「森を管理する ~森づくりの実際を体験する~」
道具の種類と使い方、手入れの仕方、木の伐り方、そして伐った木や枝の処理と活用法を学ぶ

の4回講座です。講師は第一回から第四回までを通して岐阜大学の林進教授です。

2001年全国雑木林会議神戸大会のお知らせ

日時 : 2001年9月22日(土)~24日(月)

場所 : 神戸市北区しあわせの村

テーマ : 森・人・語る~里山の過去・現在・未来~

問合せ先及び申込み先 : 078-366-5173

再度公園内森林整備事務所 全国雑木林会議係

定例活動スケジュール

集
10
時
の
広
場

- 8 / 25 (土) 里山講座と交流会
- 9 / 22 (土) オアシスの森、木の実マップづくり
- 10 / 27 (土) 第3回どんぐり祭り
- 11 / 24 (土) 竹の炭焼き
~ 25 (日)
- 12 / 22 (土) 新年の装いと梅の剪定

● 会員募集中! ●

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容は

オアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。

公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。

植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。

柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。

その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

会費は年間1,500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。

振り込み先(郵便局)

オアシスの森くらぶ00860-7-33725

連絡は事務局までどうぞ

森くらぶ
情報センター

参加申込みやお問合せなど

事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島己治男 052-803-9534

ニュースレターをメールで配信

申込先
e-mail : isoiso@eva.hi-ho.ne.jp
e-mail : masashi_k@muf.biglobe.ne.jp

ホームページをご覧ください

e-mail : yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp
URL address : http://www.amy.hi-ho.ne.jp/yoji-